

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

運営会議

(責任者名) 清水一道
(役職名) 校長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
	プログラムの履修・修得状況	令和8年度から各学科・コース共通の必修9科目と選択必修1科目から構成されたプログラムを実施する。 履修・修得状況については年度末に集計・分析し、その結果をプログラムの改善のためにフィードバックする。
	学修成果	学修成果は各科目の成績、各科目の単位修得率と履修者数に対する認定者数の割合から判断する。 単位修得率が低い科目があった場合には、担当教員に状況の確認を行い、授業内容・方法の改善につなげる。
	学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	本プログラムを構成する各科目において授業評価アンケートを実施する。質問内容には主体性、目標に対する達成度、総合的な満足度を評価する項目があり、これらの結果から授業内容の理解度を把握する。 各科目の担当教員は結果に対する改善をコメントを記載し、学生へ公開するとともに、授業内容の改善を行う。
	学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	授業評価アンケートの結果と認定率等から授業内容の改善を図るが、本プログラムの履修・認定は学生にとっては推奨されるものであるため、入学生に対するオリエンテーションにおいて本プログラムとリテラシーレベルの内容を周知するとともに、本プログラムを構成する科目の履修開始時に本プログラムの意義を説明し、履修を奨める。
	全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況	プログラム実施前であるため、全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況については記載できないが、全学生の履修を目標として指導する予定である。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	教育プログラムの修了者は今後、認定することになるが、これまでの卒業生の進路は、就職が約60～70%、進学が30～40%程度である。また、就職については、約50%が製造業、約15%が情報通信業、約10%が建設業、その他約25%となっている。卒業生の進路先として、多くの数理・データサイエンス・AI関係企業があり、専門性を活かすことができる状況となっている。卒業生の活躍状況については、令和5年度に実施した企業向けアンケートの結果からは高い評価が得られている。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	プログラム実施後には、企業向けアンケートを実施して教育プログラムについて評価していただく予定である。また、外部評価委員会においても本プログラムについての評価及び提言をいただく予定である。
	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させるために以下の内容を意識して授業を実施する。 ・身近なデータやトピックを扱う →学生が普段関心を持っていることを題材とし、親近感を持たせ、学ばせる ・社会課題や実社会への応用を意識させる →学んだことが「役に立つ」と実感させる ・成功体験を積ませる →例えば、プログラムが正しく動作する等の「できた!」という感覚を多く体験させ、自信や楽しさにつなげる
	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	より「分かりやすい」授業へと改善するために以下の方針で授業を実施する。 ・授業内容の工夫 →図表・アニメ等で難しい概念を見える化する - 実生活の問題と結びつけて教える ・技術の活用 →生成AIを活用した個別適応学習(一人ひとりの理解度に合わせた学習)の導入を検討する ・実社会とのつながり →地域の課題解決に数学やプログラミングを活用する - 最新の技術動向を反映した授業内容へ定期的に更新する これらの取組を組み合わせることで、高い教育水準を保ちながら、より分かりやすく実践的な授業を実施する。